

<b>平成 30 年度がん教育総合支援事業 がん教育推進校実践報告</b>	【実践テーマ〈キーワード〉】
	がんに対する正しい知識の習得と、地域におけるがんの予防やがん患者との共生に関する理解を深める。 〈キーワード〉保健師との連携、自分・家族への手紙
<b>北海道鹿追高等学校</b>	
<b>学級数：6 学級 生徒数：193 人</b>	

## 1 はじめに

本校では、医療分野や介護分野への進路を志望する生徒もおり、地域としても看護科の誘致に取り組むなど、医療への関心が高い。

本校生には、地域社会の担い手として、健康で活力ある生活を人々が営んでいくための町づくりに参画することが求められていることから、生徒ががんについて主体的・対話的に学習に取り組み、正しい知識を習得し、健康な生活を送るとともに、地域社会の在り方について積極的に考えていく態度を養う必要があると考え、事業を推進していくこととした。

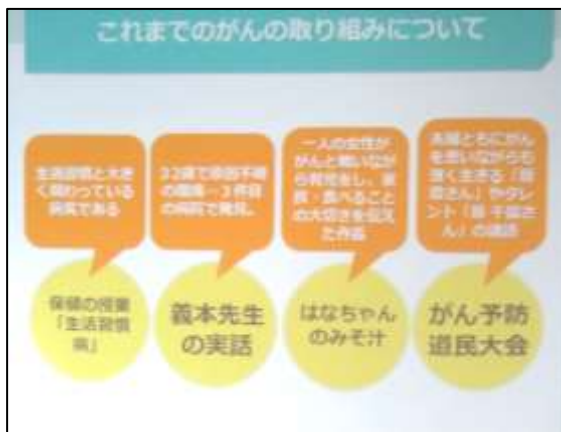
## 2 実践

### (1) がん予防道民大会への参加（2 学年）

対がん協会や帯広市が主催するがん予防道民大会に参加し、タレント・女優の原千晶さんの健康講話「大切にしたい自分の体～2度の子宮がんを経験して～」などを受講した。

### (2) 鹿追町保健師とがん経験者による講話（2 学年）

① それまでのがんについての学習の振り返りを行った。



② 鹿追町保健師から、日本や十勝、鹿追町のがんの検診率等の現状や、町のがん対策の取組についての説明があり、「がんは誰もがなりうる病気」であることを理解するとともに、がんの予防と早期発見のためのがん検診の必要性について理解を深めた。



③ がん患者・家族の支援会 enn の古城氏を講師に、がんと告知されてからの精神面の変化の過程や、がんに罹患したからこそ生きる意味を考えたこと、がん患者に対してはこれまでと同じように接するよう心がけてほしいことなどについて講話を行った。



#### 【生徒からの質問】

- がん患者・家族の支援会として活動してよかったこと
- 薬の副作用について
- 家族に伝えたときの反応
- 偏見によって傷ついたこと      など

- ④ 「10年後の自分へ、大切な人へ」をテーマとした手紙を作成し、発表した。

10年後の自分へ

生きていますか。しっかり働いていますか。幸せですか。

僕は今、夜遅くにお菓子を食べたり、夜遅くまで起きていたり、明らかに良くない生活を送っています。

できる限りがん検診に行ってください。よろしくお願いします。

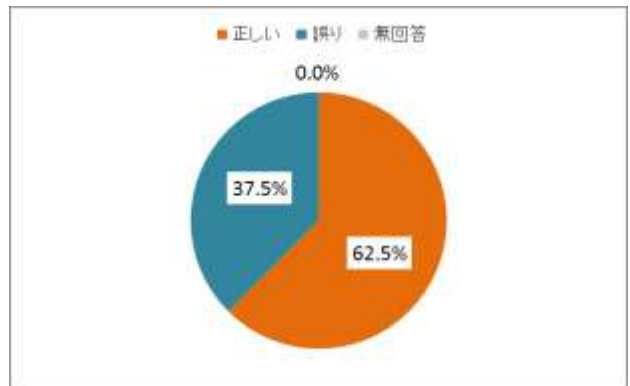
両親へ

朝早くから夜遅くまで、毎日仕事をしていて、大変だろうに、がんばっていてすごいと思います。

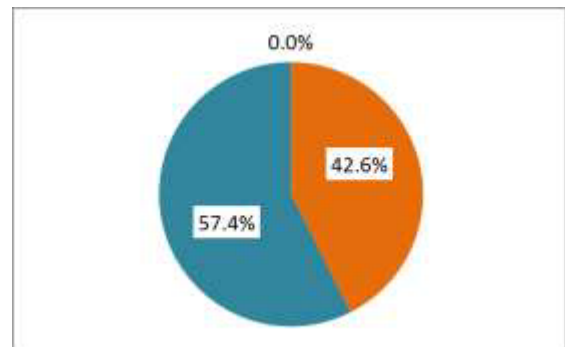
でも、がんばりすぎて体を壊さないように、体調管理をしっかりしたり、食事には気を遣ってくれたらなと思います。定期検診も受けてね。病気になっても、家族全員でサポートするからね。

- がんは進行すると、今までどおりの生活ができなくなったり、命を失ったりすることがある。

(実施前)



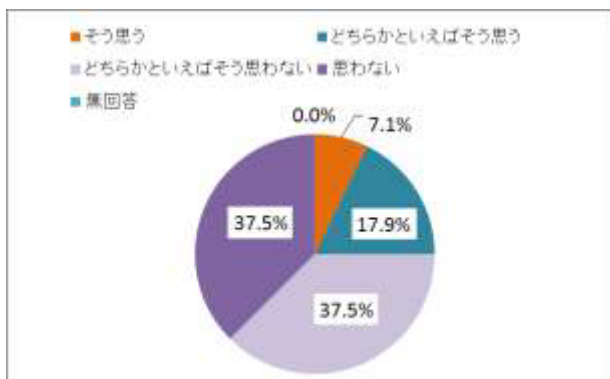
(実施後)



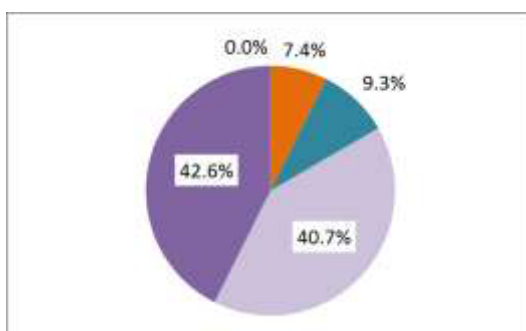
### 3 生徒アンケートの結果

- 自分はがんにならないと思う。

(実施前)



(実施後)



### 4 実践の成果と課題

- 成果 ○

町の保健師による地域の現状をテーマとした講話を受けたことにより、がんが身近な病気であるという理解を深めることができた。

がんと闘病中である講師から、がんとの向き合い方をテーマとした講話を受け、意見交換をしたことにより、がんと共に生活の質（QOL）を維持できるというイメージを生徒がもつことができた。

- 課題 ●

今後は、教科「保健」でがん教育を行う際の評価について検討するとともに、年度の早い段階から全教職員に周知し、共通理解を図りながら、学校教育全体を通してがん教育を推進していきたい。